

2006 年 1 月 27 日プレスリリース

山口情報芸術センターpresents

左右に高くそびえ立つ壁、奥行きの深い空間、
一日の流れとともに美しく変容する照明、甘美なフルーツの調べ・・・
花火のように鮮烈で儚いエロティシズム。

ドイツ演劇の最高峰ドイツ座、初来日、西日本独占公演！



©IKO FREESE/DRAMA

ドイツ座演劇公演「エミーリア・ガロッティ」

2006 年 3 月 25 日(土) 15:00 開演

山口情報芸術センター スタジオ A

主催：財団法人山口市文化振興財団

共催：NPO法人アートネットワーク・ジャパン、大阪ドイツ文化センター

助成：財団法人地域創造、財団法人アサヒビール芸術文化財団

特別協賛：アサヒビール株式会社

協力：山口日独協会

企画制作：山口情報芸術センター

この度、山口情報芸術センター（YCAM）は、ドイツ語圏の舞台芸術を代表する＜ドイツ座＞による演劇「エミーリア・ガロッティ」を行います。これは、いまベルリンで注目の新進演出家ミヒャエル・タールハイマーによるもので、2001 年のベルリン初演時には全公演が即日完売になるほど圧倒的支持を受けた作品です。また現在まで、ベルリンでは 100 回以上も上演。ニューヨークやモスクワをはじめ世界各国で上演を重ね、絶賛されています。今回の日本公演では、話題の舞台芸術を一覧する東京国際芸術祭の一環として彩の国さいたま芸術劇場で上演、その後山口情報芸術センターで**西日本では唯一**の上演を行います。

左右に高くそびえ立つ壁、奥行き深い空間、

一日の流れとともに美しく変容する照明、甘美なワルツの調べ・・・

花火のように鮮烈で儚いエロティシズム。

「エミーリア・ガロッティ」は、18 世紀のドイツ啓蒙主義の代表的人物であり、ドイツ文学史上に不朽の名をとどめる劇作家 G.E.レッシングが＜市民悲劇＞として鋭い社会批判を込めて書いた戯曲です。

これは、君主が市民階級の娘に一目惚れをしたことが引き金となる、父親と娘の悲劇。かの森鷗外も「折薔薇」と題して翻訳し、日本に紹介しています。

そしてこの古典戯曲に、大胆かつ斬新な演出で、現代ベルリンで最も注目を集める演出家の一人ミヒャエル・タールハイマーが新しい息吹を与えました。物語を大胆にカットし、そのエッセンスのみを抽出。原作に描きこまれている「君主と市民階級の差」を、「男女の心の機微と関係性」に読み換えて、スタイリッシュな演出を加えました。左右に高くそびえる壁に挟まれた奥行の深い舞台、余分な動きや小道具が一切排除された時間と空間の中で、身体／言葉／感情の狭間にある深淵に切り込むようなコンセプチュアルな観点で生まれ変わったタールハイマー版「エミーリア・ガロッティ」。ドイツ座の圧倒的な演技力を持つ俳優たちによって演じられ、人と人がわずかに触れ合う際の心の機微がウォン・カーワイ監督の映画「花樣年華」の主題曲にのせて少しずつ浮き彫りにされていきます。

1850年東ベルリンに創設、先駆的な活動で注目のドイツ座が待望の初来日！

1850 年創設という長い歴史を持ちながら、積極的に才能ある若い演出家を輩出するドイツ座。ここは劇団を有する劇場で、ベルリンの中心に位置し、ロココ式の豪華な中劇場（622 席）と小劇場（422 席）の 2 つの劇場を持って誕生しました。後者は、日本初の新劇の劇場＜築地小劇場＞（1924 年開場）のモデルとなったこともあり、日本の台詞劇の源流の一つとも言える場所です。1996 年には稽古場として使っていた敷地内の小屋を 200 席の公演会場として開放。若い世代の演劇人に発表の場を与えました。2001 年に中劇場で行われた「エミーリア・ガロッティ」をはじめ、このドイツ座は常に新しい演劇シーンの発信地として多くのファンを魅了しています。

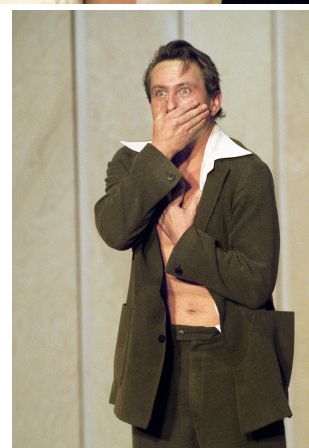
今回は、ドイツの文化を広く紹介する「日本におけるドイツ年」のイベントの一つとして、待望の初来日となりました。

山口情報芸術センターでは、国内外を問わず質の高い舞台作品を広く紹介しています。

今回のドイツ座演劇公演「エミーリア・ガロッティ」は、演劇ファンはもちろん、その洗練された衣装や舞台美術は演劇には馴染みの少ない方をも魅了します。

日本では、首都圏と山口のみで上演される本公演をどうぞご紹介いただけますよう、ご検討をお願いいたします。

ドイツ演劇界を代表し、クオリティの高い舞台を作り続けている演出家、ミヒャエル・タールハイマーの作風は、古典作品の現代化、また洗練された舞台美術などで知られている。今回「日本におけるドイツ」年の一環で山口情報芸術センターで上演される「エミーリア・ガロッティ」も、そういった作風だ。奥行のある通路を俳優が行き来する舞台はファッション・ショーさえ思い出させる。しかし、タールハイマーの舞台は美しいばかりではない。確固とした「中心」を失った現代人の姿を見事に浮き上がらせるのだ。登場人物たちはいつもそれぞれ別の方向を見つめ、その視線が交わることは少ない。なかなか観る機会の少ない舞台が、日本で上演されるのを、とても楽しみにしている。



©IKO FREESE/DRAMA

エミーリア・ガロッティ あらすじ

グスタッラの公爵ゴンザーガは、平民の娘エミーリアを一目見て恋に落ちるが、彼女がアップアーニ伯爵との結婚を控えていることを知り愕然とする。結婚式の朝、教会で祈りを捧げるエミーリアの耳元で、公爵が愛の言葉を囁く。驚き慄くエミーリア。同じ頃、侍従マリネッリの策略によってアップアーニ伯爵が殺害される。何も知らずに、公爵邸に連れてこられるエミーリア。一方、公爵に裏切られ、プライドを著しく傷つけられた元恋人オルシーナ伯爵夫人は、エミーリアの父親に公爵が娘を誘惑したことを告げ、復讐するように仕向ける。娘の貞操を傷つけた公爵を殺し、娘を連れ戻そうとする父親に、静かに対峙するエミーリアは、自らの身体に流れる熱き血と肉と官能を見出してしまったことを告げ、死を選ぶことを決意する・・・

プレス評

他人をコントロールしたいという欲望とコントロールされたいという愛。これを人間が集団存在であることから直接由来する政治性と呼ぶことができるとすれば、タールハイマーが見せるのは、感情の政治学であると言えるだろう。

新野守広著「演劇都市ベルリン」(れんが書房新社 2005 年刊)

ミヒャエル・タールハイマーは、レッシングの原作をラディカルな舞台に立ち上げ、ベルリン市民を震撼させた。

DPA 紙 (2001 年 9 月 28 日付)

タールハイマーは、ミニマリストである。本作品は、繊細なディテールにまでわたって設計された、コンセプト・シアターと呼べる。(中略) 観客は催眠術にかけられ、時間感覚を失う。

Der Tagesspiegel 紙 (2001 年 9 月 29 日付)

ドイツ座とミヒャエル・タールハイマー

ドイツ座 Deutsches Theater

■劇場史

1850 年にベルリンの旧東ドイツ地区に建設され、ロココ式の豪華な中劇場 (622 席) と小劇場 (カンマーシュピーレ・422 席) の 2 つの舞台を持ち、質の高い舞台を提供することで定評がある。



1905 年に、演出家マックス・ラインハルトが劇場に参加して以降、ドイツ語圏の舞台の「最高峰」という名声を手にし、世界的に名を知られるようになる。マックス・ラインハルトは、亡命する直前の 1933 年まで、この劇場を率い、隣接する土地に近代的なカンマーシュピーレ (室内劇場) を建てて俳優たちを集めた。ナチ独裁の暗く困難な時代には、ときに「反抗的な舞台」としての名声を保ち続け、戦後になると、亡命していた多くの芸術家たちがドイツ座に新しい拠点を見出した。以降、ベンノ・ベッソン、アレクサンダー・ラング、ハイナー・ミュラーらを続々と輩出していく。1990 年、ミュラー演出『ハムレット／マシーン』の初演も同劇場で行われた。

1991 年より、トーマス・ラングホフが芸術総監督を務め、1996 年には「バラック」という若い演劇人のための小スペースをつくり、当時注目を集めていたトーマス・オースターマイヤーにその運営を任せた。「バラック」では、マーク・レイヴンヒル、サラ・ケイン、デイヴィッド・ハロワーなど、英国の現代戯曲に取り組み、ドイツの若手演劇人たちに大きな影響を与えた。1990 年代に入り、2 度に渡って "Theater des Jahres" (年間で最も優れた活動をした劇場に与えられる賞) に選ばれている。

ミハエル・タールハイマー / Michael Thalheimer (演出)

1965 年、フランクフルト近郊に生まれ、1985 年からスイスのベルンで俳優の勉強をする。俳優として、ベルン、マインツ、ブレーマーハーフェン、ケムニッツなど、ドイツ語圏のさまざまな市立劇場で活動したあと、1997 年、ケムニッツ市立劇場で初めての演出、フェルナンド・アラバル(Fernando Arrabal)作『建築家とアッシリア皇帝 Der Architekt und der Kaiser von Assyrien』を発表したところ、その独特で精確な演出に他の劇場がすぐに注目し、以後、バーゼル、ライプツィヒ、フライブルクの著名な劇場での演出が続いた。

2000 年、タリーア劇場（ハンブルク）での『リリオム Liliom』とドレスデン劇場での『祭り Das Fest』の演出で高い評価を受け、この二作は 2001 年、ドイツ語圏の年間最優秀演出作品を決める演劇祭、ベルリン・テアータートレフフェンに招聘された。同演劇祭へは、2003 年にタリーア劇場での『恋愛三昧 Liebelei』が、2005 年には『ルル』(フランク・ヴェーデキント作)でも招聘されている。

タールハイマーの演出は、現在、定期的にハンブルクのタリーア劇場とベルリンのドイツ座にて観ることができる。ドイツ座においては、2001 年の『エミーリア・ガロッティ』がデビュー作となり、以降、『三人姉妹』(チェーホフ)、『寂しき人々』(ハウプトマン)、04 年の『ファウスト 悲劇第一部』が続く。受賞歴としては、放送局〈3sat〉の革新的演出賞(『リリオム』)や、ベルリンのフリードリヒ・ルフト賞、そして有名なウィーンのネストロイ賞(ともに『エミーリア・ガロッティ』)がある。

2005 年 1 月、ベルリン国立オペラ座での『カーチャ・カバノヴァ』で成功裡にオペラ演出デビューを果たしたタールハイマーは、さらに、頻繁にザルツブルク・フェスティヴァルやウィーン祝祭週間、また他の国際フェスティヴァルに招聘され、ローマ、キエフ、ブダペスト、ベオグラード、プラハ、マドリード、メキシコシティ、ボゴタ(コロンビア)などで上演されている。『エミーリア・ガロッティ』はドイツ座にて現在でも非常に高い人気を博すレパートリー作品として、100 回以上の上演を重ねており、客席は常に満席となっている。

タールハイマーは現在ベルリンに在住、2005 年夏からはドイツ座の主任演出家を務め、芸術監督の一人である。ドイツ座での最新作は『ファウスト 悲劇第二部』。

関連イベント

■ ドイツ・マーケット

日時：3月25日(土) 会場：スタジオA ロビー

山口日独協会のご協力により、ドイツグッズの販売をいたします。

■初めてのパフォーマンスガイドvol.3

日時：3月11日(土) 会場：ホワイエ 入場無料

新野守広氏(「演劇都市ベルリン」著者)によるベルリン演劇に関するレクチャーを行います。

■関連映画上映 コミュニティシネマ山口 「花様年華」 ウォン・カーウアイ監督作品

日時：3月24日(金)～26日(日) 会場：スタジオC

概 要

ドイツ座演劇公演「エミーリア・ガロッティ」

原 作： G.E.レッシング

演 出： ミヒャエル・タールハイマー

日 時： 2006年3月25日(土)15:00開演 1時間前ロビー開場

※ドイツ語上演・日本語字幕付き

※終演後、アフタートークを行います。

会 場： 山口情報芸術センター スタジオA

料 金： 全席指定

A席 一般 3,000円 any会員/特別割引 2,000円

B席 1,500円

チケット情報：

会員先行予約：1月28日(土)～

※any会員先行予約初日は電話のみの受付となります。

プレイガイド発売：2月4日(土)～

チケットインフォメーション 083-920-6111

ローソンチケット 0570-084-006(Lコード 68807)

主 催： 財団法人山口市文化振興財団

共 催： NPO法人アートネットワーク・ジャパン、大阪ドイツ文化センター

助 成： 財団法人地域創造、財団法人アサヒビール芸術文化財団

特別協賛： アサヒビール株式会社

協 力： 山口日独協会

企画制作： 山口情報芸術センター

■特別割引について

特別割引は、青少年(18歳未満)、シニア(65歳以上)、障害者及び同行の介護者1名が対象。
山口情報芸術センター、山口市民会館、山口南総合センターのみの販売となります。

■託児サービス

対象：0才以上 託児時間：開演の30分前から終演後30分後まで

料金：お子様1人につき500円、2人目以降は1人につき300円

申込方法：3月18日(土)までにチケットインフォメーション(TEL：083-920-6111)までお申し込みください。
未就学児のご入場はご遠慮ください。

<山口情報芸術センター(YCAM)へのアクセス>

■JR新山口駅から

- ・JR山口線湯田温泉駅下車、徒歩20分/タクシー5分
- ・JR山口線山口駅下車、徒歩20分/バス10分(中園町か済生会病院前下車)/タクシー5分
- ・防長バス25分、中園町下車

■自動車利用

- ・山陽自動車道で防府東ICから30分/九州・中国自動車道で小郡ICから15分

お問い合わせ：山口情報芸術センター 企画担当：岸、四元 広報担当：小滝
〒753-0075 山口県山口市中園町7-7

TEL：083-901-2222 FAX：083-901-2216 E-mail：information@ycam.jp
<http://www.ycam.jp/>